

近赤外光を如何に利用するか

再生可能エネルギーシステム、人工光合成の実用化のためには、無尽蔵に存在する、太陽光に多く含まれる可視光・近赤外光領域の低エネルギー光を有効利用することが重要となっている。

光触媒や人工光合成の研究においても、可視光応答する材料の開発が広く行われている。しかし、通常利用する光（通常光）を用いた光化学反応では、紫外光により1回の吸収で利用するプロセスがほとんどであり、近赤外光に至っては実現が困難となっている。・・・